

母親達の育児情報の受けとめ方に関する考察

— 現在の一番の気がかりの質的分析

山岡テイ⁽¹⁾、巷野悟郎⁽²⁾、太田百合子⁽²⁾、中澤恵子⁽²⁾
植松紀子⁽²⁾、小林祐子⁽³⁾、狩野順子⁽⁴⁾、山中龍宏⁽⁵⁾

【要約】

母親達は毎日の育児の気がかりを解消するために、内容別に独自の情報網を使いわけている。そこで、現在の一番の気がかりとして多くの母親達あげた「アレルギー」「食事の量やバランス」「トイレトレーニング」を事例として、その不安内容と解消法パターンフローの特徴を質的に分析した。その結果、母親は気がかりの内容や質によって、家庭を核としながら必要な情報をまず身近かな所から収集し解決をはかり、さらに専門情報を入手しては、また近くへ戻るといった段階的な情報収集を行う場合と、最初から社会やマスコミからの情報や影響を色濃く受けて、肝心な子どもからの情報を的確につかめない状況に陥る場合もあることが明らかになった。

見出し語：育児の気がかりの特徴、医者へのアドバイス、夫と一緒に情報収集を、子どもが一番の情報源、実践的で役に立つ情報、近所の友人と育児雑誌、長い目と時が解決

(1)情報教育研究所 (2)こどもの城小児保健部 (3)板橋区板橋保健所 (4)板橋区志村保健所
(5)焼津市立総合病院小児科

【I】はじめに

●育児の気がかりの特徴

母親達が現在の育児の気がかりとしてあげた内容を、子どもの月齢とクロス集計した結果では、月齢の発達とともに、ある時期に現れては消える一過性の気がかりと、どの月齢時にも共通してあげられている関心の高い気がかりがあることがわかった。(表1~22頁)

たとえば、「便秘」や「肌の手入れ」などは0~4ヵ月の月齢の低い時期にだけ集中しており、また、「トイレトレーニング」も、1歳半前後から急に60~70%の母親が関心を抱きはじめ2歳台では最大関心事となっているが、3歳を過ぎると、ほとんど記述されていないことから、これらは代表的な一過性の気がかりといえよう

その一方では、「アレルギー」や「食事の量、やバランス」、「食の安全性」などは、0~4歳台のどの時期にも上位5番目以内に気がかりとしてあげられており、関心の高さを示していた。

そして、母親達はそれらの気がかりを解消するために、内容によって図1のようなさまざまな情報源から育児情報を入手していることも、調査結果では明らかになっていた。(表25)

そこで、今年度は、「現在の育児の一番の気がかり」の具体的な記述内容と対応策を質的に分析して、個々の特徴をあきらかにし、情報の送り手として対処すべき点を探った。

【II】方法

「現在の育児の気がかり」として複数回答であげた内容の中から、最大関心事としてひとつだけあげた項目の具体的な記述内容と対応策の

記述内容を49項目別に分析して考察を試みた。それらの中から、とくに母親達の関心が高い項目の上位3つである、

①「アレルギー」9.6%(71人中、具体的な記述は57人)

②「食事の量やバランス」8.1%(66人中46人)

③「トイレトレーニング」4.9%(36人中28人)

を代表事例として、相談相手や情報入手先のフロー、解消のパターンの分析結果を報告した。

【III】研究結果

●医者へのアドバイス

毎日の育児の内容を6領域49項目に分類し、最大関心事を尋ねた集計結果の筆頭が、「アレルギー」であった。乳幼児をもつ母親のアレルギーに対する関心度は年々高まるばかりである

母親達のアレルギーの情報入手先としては、図2のように、病院が突出するパターンで、その他、育児雑誌や育児書、保健所や近所の友人と同じくアレルギーの子どもをもつ母親などから。複合的に情報を集めているのが特徴であった。

解消方法としては、「医師へのアドバイス」が30%でもっとも多く、解消パターンでは、

「医師へのアドバイス⇨自分でいろいろ試す、工夫する」・「医師へのアドバイス⇨同じ悩みをもつ人に相談する」というフローが多かった。

また、アレルギーの場合、他の関心事の解消方法と比べて目立つのは、「夫と相談する」9%や「医者に不満」9%、「まだ解消していない」などの記述であった。また、「良かれと思うことをつぎつぎ試す」・「自分でいろいろ工夫する」など、いくつもの具体的な内容詳細が書かれてあったり、良い解決法や情報を求めて積極

的に行動している様子が伝わってきた。

●夫と一緒に情報入手を

アレルギー情報に関しては、多角的にとらえて考察しなければならないと思われるが、ここでは、まず、家庭の内外で父母が協力して、病気に立ち向かう周囲の理解やサポートが必要であるという観点から、いくつかの事例をあげた。

不安内容：「子ども3人がアトピー性皮膚炎です。長女も長男も軽いため、いまはほとんどありませんが、ステロイド剤を使うことの副作用が後々心配」
↓
12歳・7歳・6ヵ月

解消方法：「育児不安はまず一人で考えないことが大事。職場ではいいとしても、帰宅後の交友関係が難しく孤独感を感じて生協に加入。家庭同士の交流ができて、いろいろなケース、他の人も悩んでいると知り、情報交換を積極的に行ったり、新聞や講演などで知識を得ては、和を広げてきた」

不安内容：「食事制限をされていて、すべて料理は手作り。とくに、日曜は父親用の食事も別に作らなければならず、私は休まる時がない。」1歳7ヵ月
↓

解消方法：「お父さんが協力して育児をして欲しい。子どもの食事は絶対作ってくれないので。生後6ヵ月までの苦しいときはいろいろな所や人に相談し歩いた。とくに、保健所の保健婦が勉強不足でがっかりした。」

不安内容：「小児喘息がいつまで続くのか、治

↓
るのか心配。」2歳6ヵ月・4歳

解消方法：「信頼できる医師と自分達夫婦で子どもの病気を治すこと。何件も病院まわりをしてやっと信頼できる先生に出会い少しずつ良くなっている。通っている医者に不満があったら、納得いくまで話し合い、ダメだったら病院を変える勇気も必要。」

アレルギーをもつ子どもを抱えている母親を対象に実施した過去の調査結果では、夫や祖父母、近所の友人などまわりの人達の理解やサポートと、母親の不安が少ないこととの相関関係が明らかにされていた。

アレルギーに関する情報は、マスコミや口コミでも氾濫しているのが現状である。しかし、今回の記述の内容から、保健所などの両親講習会の必要性や病院での診察時に、父母や同居の祖父母も揃って病状や日々のケアや心構えなどの指導を行えるシステム作りによって、母親の不安が軽減するであろうことが示唆された。

●子どもが一番の情報源

「食べること飲むこと」は、新生児から幼児期に至るまで、内容や質の変化はあっても多くの母親にとっては大きな悩みの種である。

母親達が「現在の気がかり」としてあげた内容は「食事の量やバランス」43.9%がトップで「食の安全性」42.2%、「しつけ」40.5%、「献立メニュー」36.5%、「食事のしつけ」33.5%と食べることに集中していた。とくに、離乳食や幼児食の「量やバランス」は、授乳時も断乳後も最大の関心事であることが今回の調査結果から

も明らかになった。(表-22、図6-7鑑)

食事の量やバランスに関する情報の入手先としては、「保健所の保健婦、栄養士」「近所の友人」「育児雑誌」「育児書」「病院」など多岐に渡っている。(図3)

解消方法のパターンとしては、他の気がかり項目に比べて、「子どもの様子を見る」「子どもの個性だから」「子どもには個人差があるので」など、「子ども」を情報源としたり、解決の緒を子ども自身に見出そうという記述が22%あった。

解消法フローでは、「いろいろな人に相談する⇨いろいろな方法を試す⇨時間が解決するだろう」がもっとも多く15%であった。

食事の量やバランスは、離乳食のスタートから幼児食の定着まで、単に授乳量や栄養の摂取バランスよく食べて欲しいという願いだけには留まらない。

間食や好き嫌いのことで母子が衝突する、遊び食べや食事のしつけ、同居の姑との食べ物観相違、食物アレルギーの食事療法など、この不安項目には食卓を巡るさまざまな育児の問題が凝縮している感があった。

●実践的で役立つ情報

月齢が大きくなるに従って、「一人で悩まない。信頼できる人に相談する」(10ヵ月)「ただグチを聞いてもらうだけでも気が軽くなる」(1歳6ヵ月)とストレス解消が第一と考える母親や「個人差があるから本や教科書どおりにはいかなくてもいいと思う」(1歳8ヵ月)「その子の時期がくれば食べるようになる。今は食べない時期なん

だと思う」(3歳)「あまり深刻に考えず、気持ちを大きくもつように努める」(2歳6ヵ月)など、時が解決するという母親が多い一方では、積極的に解決するための情報を収集してつぎつぎに試している奮闘型の母親も目立った。

不安内容：「少食のため食べてもらえる食事メニューでは頭を悩ます」(1歳2ヵ月)

↓
解消方法：「専門の人に相談。いろいろ試行錯誤しながら何らかの解決策が出てくると思う」

不安内容：「好き嫌いがある。野菜はあまり食べない」(2歳3ヵ月)

↓
解消方法：「料理上手になる。離乳食の目安になるメニューはどこにでもあるが、その後はまったく指導がないので、これでいいのかと不安。いろいろ試して、とりあえず成長しているのでだいじょうぶなのだろうと思うが」

不安内容：「食事の量が少ない。家が仕事の関係でバラバラに食事をとるので、そのつどつまみ食いをする」(3歳1ヵ月)

↓
解消方法：「食事の用意を手伝わせて、自分でよそったものは責任もって食べるようにさせたり、テレビの食事シーンを見せてマネをさせたりしている」

不安内容：「ご飯と果物ばかり食べて、おかずをあまり食べないので、栄養バランスが心配」(1歳)

↓
解消方法：「信頼できる小児科の先生の意見が一番安心。本や雑誌はおおげさに書かれていることもあると思う」

保健所や病院の専門家への相談で安心を得た

という人がいれば、近所の友人や経験者のアドバイ스가何より役に立った、また、雑誌の体験談や料理メニューが信頼できる情報源という人など、受けめ方は一様ではない。子どもの成長発達状態や個性が千差万別なように、食べることへの対応情報の選択はさまざまであった。

それらの表現の中では、とくに、専門家指向が認められることと、情報の出所がどこであろうとも、すぐに役に立つ実践的な方法が支持されていることが明確であった。

また、具体的な調理例を提示するだけでなく、とくに、幼児食への移行期以後には、母親自身の「子どもに食べさせなければいけない」という呪縛を解き放すカウンセリング的なサポート情報が必要とされているのではないかと思われた。

●近所の友人と育児雑誌

トイレトレーニングへの関心は、子どもが1歳半ごろから急に高まり、2歳前後では7割以上もの母親が気にかけている最大関心事である

トイレトレーニングは本来子どもの体の発達と習慣やしつけに関連した育児内容ではあるがおむつはずしの時期は、さまざまなタイプの紙おむつの普及や衣類乾燥機などの電化製品や育児用品からの影響も受けていると思われる。

母親達の「現在の育児の気がかり」を尋ねた3年前の調査結果では、すでにトイレトレーニングが1歳1ヵ月～3ヵ月の時点で49.2%と関心事の3位にあげられていたが、今回の調査では、1歳1ヵ月では5位にも入っておらず、気がかりの時期が遅れていることがわかった。

(表9、11と表23、24)

トイレトレーニングの相談相手や情報入手先としては、同年齢の子どもをもつ「近所の友人」や「実家の母」、いろいろな体験談や小児科医の専門情報が載っている「育児雑誌」や「育児書」などをあげていた。

トイレトレーニングに関連した紙おむつやおまる、育児用品などの情報源としては、実際に使っている近所の友人の使用実感や育児雑誌、通販カタログ、テレビのCMや薬局のチラシなども上手に活用している記述もあった。

●長い目と時が解決

トイレトレーニングの不安解消法としては、「時が解決してくれると思うようにする」「情報を集める⇨友人に相談する⇨長い目でみる」がそれぞれ25%で大半を占めていた。

具体例をあげると、

不安内容：「口うるさくは言っていなかったつもりだが、2時間間隔だった排尿が
↓
このごろ短くなってきた」(1歳10ヵ月)

解消方法：「同じ悩みをもつお母さん方との話で、自分だけではないと知り安心」

不安内容：「近所の子が皆パンツにしているためうちの子も思い切ってパンツにしたが、下の子が生まれて同じように
↓
おむつをしたがる」(2歳6ヵ月・4ヵ月)

解消方法：「時が経てば解決できると思う」

不安内容：「まだ、おしっこを覚えてくれない。
↓
来年は幼稚園なので心配」(2歳7ヵ月)

解消方法：「自分だけで悩まず、近くの同年齢の子をもつ人達に相談している」

不安内容：「普通の2歳児より言葉数も多く理解力もあるのに、トイレだけはいやがる。わかっているのに教えないのでイライラする」(2歳7ヵ月)

解消方法：「あせっても仕方のないこと。他人と比較せずに愛情をもって育児を楽しむように心がけたい」

トイレトレーニングの不安内容は子どもの月齢とともに変化していく。「いま、教えてくれない、とれなくて心配である」というように、いま現在の悩みとして記述はされているが、その背景には、「来年には3年保育の幼稚園へ行かせたいので」「下の子が生まれる前に」など将来に備えての心配であることが多かった。

また、3歳台になると、「下の子が生まれたら一度とれたおむつが、また失敗するようになった」とか、「引越しゃ自分が切迫流産で寝ているために、2歳7ヵ月でやっととれたおむつにまた逆もどり」、「ウンチだけはどうしても教えない」など、母親は子どもの心理面でのアドバイスや対処情報を求めるケースもあった。

【IV】まとめ

現在の一番の気がかりを誰かに相談したは73.2%、相談しなかったは21.5%、その結果、気がかりが解消した24.8%で、まだ、解消していないは62.9%、さらに不安が高まったは2.2%であった。

相談した相手別に気がかりが解消されたか否かをみると、相談した結果「解消された」相手では[姑]最も高く33.7%、「まだ解消されない」は[病院の医師]が71%でトップ。「さらに不安が高まった」相手は[母や姑以外の親戚兄弟

6.0%、つぎは[保健所の保健婦や栄養士]3.9%であった。

数値が単純にその相談相手が不安を解消できたか、できなかったということを表わす尺度ではない。相談する内容が簡単な助言や決定、実行ですぐに解決できる場合と、慢性疾患や解決に時間や環境の変化を要するような難しい場合とでは同じ数値上で測ることはできないので、情報源や解消法を質的にとらえる必要がある。

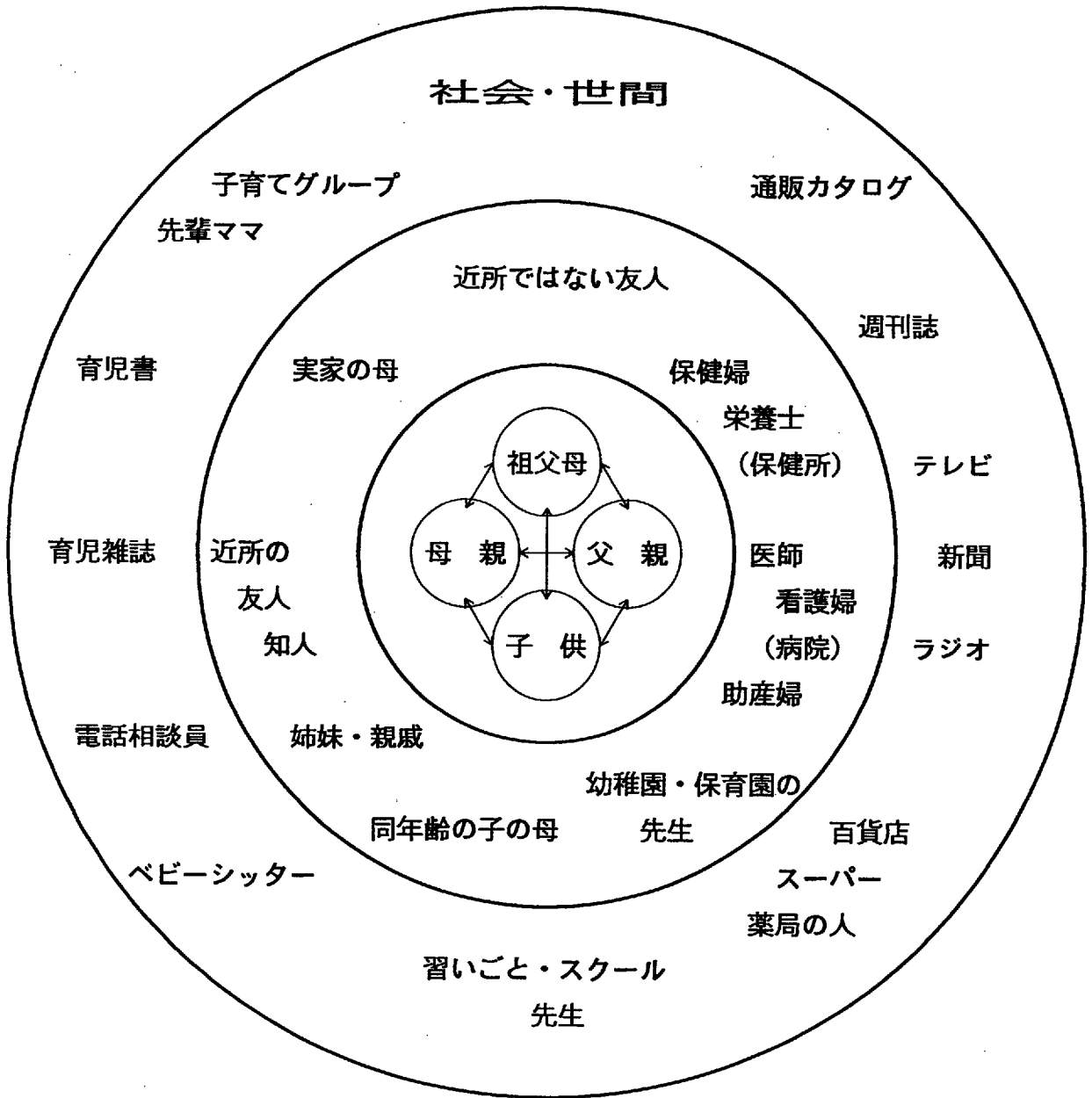
たとえば、アレルギーを例にとると、マスコミから知識を得て、わが子のケースにあてはめて心配になり、一番に信頼する情報源でもある病院の医師に相談して治療しつつも、将来への不安は依然として残る。日々の相談相手としては近所の友人や実家の母などに話を聞いてもらい、夫の援助や本や雑誌からのさまざまな医学情報や最新のケア用品などを入手して試している様子が浮かびあがった。

多くの母親達は毎日の育児の中で、子どもの個性や発達による気がかりを抱えて生活しているが、その不安の原因となる育児情報も解消法も同じ情報源から入手している場合もある。

そして、一方的に情報を受信するだけの場合には、不安がつりの、双方向性でしばしば情報交流ができる場合には、自ずと解消されるケースが多いことも明らかになった。

今後は、病院や保健所、マスコミ、電話相談など育児の専門情報を発信する側が、母親が求めている情報の本質を見極めて、風通しのよい情報交流ができる状況や場を提示することが必要であると思われる。

図1 母親を囲む育児情報源



●育児の気がかり《月齢別のクロス集計》

母親達が現在の育児での気がかりとして、複数回答(M.A.)であげた内容項目が左側の表で、それらの中でもっとも気にかかっていることを一つだけ回答した(S.A.)結果が右表である。

0～3ヵ月 ●アレルギーへの不安感が目立ち

授乳が一番の関心事

表1 育児の気がかり(0ヵ月~3ヵ月) N=46

順位	気がかりの内容項目	%
1	アレルギー	52.2
2	生活リズムと睡眠	45.7
3	授乳・母乳・ミルク	43.5
4	肌の手入れ	41.3
5	食の安全性	39.1
5	しつけ	39.1

M.A.

表2 育児の一番の気がかり (0ヵ月~3ヵ月)

順位	気がかりの内容項目	%
1	授乳・母乳・ミルク	19.6
2	アレルギー	10.9
3	便秘	8.7
4	食の安全性	6.5
4	夜泣き・泣くこと	6.5
4	住まいの環境整備	6.5
5	肌の手入れ	4.3

N=46 S.A.

4～6ヵ月 ●授乳と離乳食が関心の中心

環境や仕事への意識も

表3 育児の気がかり(4ヵ月~6ヵ月) N=154

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事の量やバランス	43.5
2	住まいの環境整備	40.9
3	保育園や幼稚園	38.3
3	生活リズムと睡眠	38.3
4	食の安全性	36.4
5	アレルギー	34.4

M.A.

表4 育児の一番の気がかり (4ヵ月~6ヵ月)

順位	気がかりの内容項目	%
1	授乳・母乳・ミルク	9.7
1	アレルギー	9.7
2	食事の量やバランス	9.1
3	保育園や幼稚園	6.5
4	便秘	4.5
5	運動能力や成長発達	3.9
5	仕事	3.9

N=154 S.A.

7～9ヵ月 ●離乳食の質や内容

しつけや教育も気になり始める

表5 育児の気がかり(7ヵ月~9ヵ月) N=42

順位	気がかりの内容項目	%
1	献立メニュー	57.1
2	食事の量やバランス	50.0
3	食の安全性	47.6
4	しつけ	40.5
5	食事のしつけ	38.1

M.A.

表6 育児の一番の気がかり (7ヵ月~9ヵ月)

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事の量やバランス	16.7
2	食事のしつけ	9.5
3	しつけ	7.1
3	献立・メニュー	7.1
3	夜泣き・泣くこと	7.1
4	アレルギー	4.8
4	早期教育	4.8

N=42 S.A.

10~12 ヶ月 ●断乳への準備と食事のバランス
夜泣きや生活リズムにも悩む

表7 育児の気がかり(10ヵ月~12ヵ月) N=61

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事の量やバランス	54.1
2	生活リズムと睡眠	49.2
3	献立メニュー	47.5
4	しつけ	46.0
4	食の安全性	46.0
5	夜泣き・泣くこと	37.7

M. A.

表8 育児の一番の気がかり(10ヵ月~12ヵ月)

順位	気がかりの内容項目	%
1	断乳	14.8
2	食事の量やバランス	8.2
2	夜泣き・泣くこと	8.2
3	アレルギー	6.6
3	遊び方	6.6
4	しつけ	4.9

N=61 S. A.

1歳1ヵ月~1歳3ヵ月 ●幼児食移行にともなう食事全般
夜泣きや予防接種も気になる

表9 育児の気がかり(1歳1ヵ月~1歳3ヵ月) N=39

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事の量やバランス	53.8
2	食事のしつけ	48.7
3	しつけ	41.0
3	予防接種	41.0
3	保育園や幼稚園	41.0
4	夜泣き・泣くこと	35.9
5	食の安全性	30.8
5	献立メニュー	30.8

M. A.

表10 育児の一番の気がかり(1歳1ヵ月~1歳3ヵ月)

順位	気がかりの内容項目	%
1	夜泣き・泣くこと	10.3
2	食事の量やバランス	7.7
2	予防接種	7.7
3	アレルギー	5.1
3	生活リズムと睡眠	5.1
3	食事のしつけ	5.1
3	断乳	5.1

N=39 S. A.

1歳4ヵ月~1歳 ●健診後にアレルギー不安が急増
しつけや癖なども関心事に

表11 育児の気がかり(1歳4ヵ月~1歳) N=134

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	62.7
2	食事の量やバランス	47.0
2	献立メニュー	47.0
3	食の安全性	46.3
4	しつけ	44.8
5	食事のしつけ	42.5

M. A.

表12 育児の一番の気がかり(1歳4ヵ月~1歳)

順位	気がかりの内容項目	%
1	アレルギー	10.4
2	食事の量やバランス	9.0
3	食の安全性	6.7
4	トイレトレーニング	5.2
4	断乳	5.2
5	しつけ	4.5
5	気になる癖	4.5

N=134 S. A.

1歳7ヵ月~2歳 ● トイレトレーニングへの関心が高まり
子どもの性格や態度も気になる

表13 育児の気がかり(1歳7ヵ月~2歳) N=51

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	68.6
2	食の安全性	52.9
3	食事のしつけ	51.0
3	食事の量やバランス	51.0
4	しつけ	49.0
5	保育園や幼稚園	45.1

M. A.

2歳1ヵ月~2歳 ● 最大関心事はトイレトレーニング
食事のしつけなども悩みの種

表15 育児の気がかり(2歳1ヵ月~2歳) N=29

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	72.4
2	しつけ	51.7
3	食の安全性	48.3
4	献立メニュー	41.4
5	食事のしつけ	37.9
5	遊び方	37.9
5	習いごと	37.9
5	保育園・幼稚園	37.9

M. A.

2歳7ヵ月~3歳 ● 性格や態度・癖などが気になり
しつけ面が重要視される

表17 育児の気がかり(2歳7ヵ月~3歳) N=50

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事の量やバランス	54.0
2	しつけ	44.0
3	保育園や幼稚園	42.0
4	トイレトレーニング	38.0
4	食の安全性	38.0
5	食事のしつけ	36.0

M. A.

表14 育児の一番の気がかり(1歳7ヵ月~2歳)

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	15.7
2	性格や現在の態度や様子	9.8
2	食事の量やバランス	9.8
2	食の安全性	9.8
2	アレルギー	9.8
3	断乳	5.9
4	妊娠・出産や産後のこと	3.9

N=51 S. A.

表16 育児の一番の気がかり(2歳1ヵ月~2歳)

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	27.5
2	気になる癖	10.3
3	食事のしつけ	6.9
3	保育園や幼稚園	6.9
3	性格や現在の態度や様子	6.9
3	アレルギー	6.9
3	食事の量やバランス	6.9

N=29 S. A.

表18 育児の一番の気がかり(2歳7ヵ月~3歳)

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	14.0
2	性格や現在の態度や様子	12.0
3	アレルギー	10.0
4	食事のしつけ	8.0
4	しつけ	8.0
5	保育園や幼稚園	6.0
6	気になる癖	4.0

N=50 S. A.

3歳1ヵ月~3歳6ヵ月 ●アトピーから喘息や鼻炎
おねしょや精神発達も心配に

表19 育児の気がかり(3歳1ヵ月~3歳6ヵ月) N=91

順位	気がかりの内容項目	%
1	食の安全性	41.8
2	献立メニュー	37.4
2	アレルギー	37.4
3	保育園や幼稚園	36.3
4	しつけ	35.2
5	性格や現在の態度・様子	34.1

M. A.

3歳6ヵ月~4歳 ●早期教育や習いごとへの関心
喘息、鼻炎などの心配も

表21 育児の気がかり(3歳6ヵ月~4歳) N=43

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事の量やバランス	44.2
2	食の安全性	38.9
3	しつけ	37.2
4	アレルギー	34.9
4	性格や態度	34.9
5	保育園や幼稚園	30.2

M. A.

1歳1ヵ月~1歳3ヵ月 ●トイレトレーニングが浮上

表23 育児の気がかり(1歳1ヵ月~1歳3ヵ月) N=65

順位	気がかりの内容項目	%
1	食事のしつけ	55.4
2	しつけ	50.8
3	トイレトレーニング	49.2
4	断乳・哺乳びんはずし	43.1
5	性格や現在の態度や様子	36.9

M. A.

表20 育児の一番の気がかり(3歳1ヵ月~3歳6ヵ月)

順位	気がかりの内容項目	%
1	アレルギー	9.9
2	保育園や幼稚園	7.7
3	おねしょ	6.6
3	献立メニュー	6.6
3	気になる癖	6.6
3	食事の量とバランス	6.6
4	精神や言葉の発達	5.5

N=91 S. A.

表22 育児の一番の気がかり(3歳6ヵ月~4歳)

順位	気がかりの内容項目	%
1	アレルギー	18.6
2	早期教育	9.3
2	性格や現在の態度や様子	9.3
3	保育園や幼稚園	7.0
4	習いごと・教材	4.7
4	しつけ	4.7
4	気になる癖	4.7

N=43 S. A.

1歳4ヵ月~1歳6ヵ月 ●トイレトレーニングが1位に

表24 育児の気がかり(1歳4ヵ月~1歳6ヵ月) N=34

順位	気がかりの内容項目	%
1	トイレトレーニング	56.7
2	食事のしつけ	44.7
3	しつけ	42.7
4	人間関係のこと	31.3
5	しつけ・教育のその他	30.7

表23~24: 山岡イミ子「1991年版 育児白書」主婦の友社 1991

図2 [アレルギー]の情報の入手先

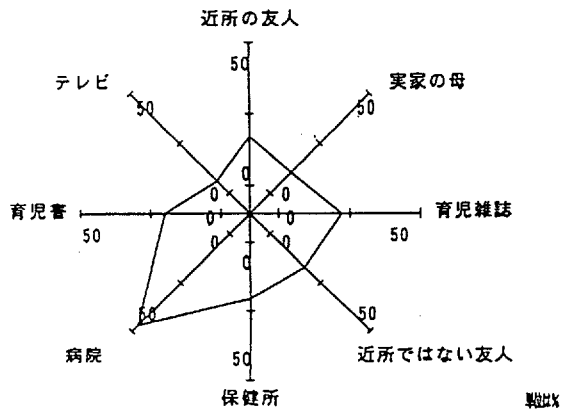


図3 [食事の量やバランス]の情報入手先

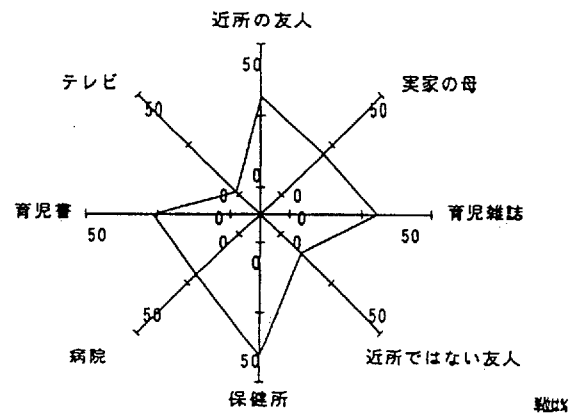


図4 [トイレトレーニング]の情報の入手先

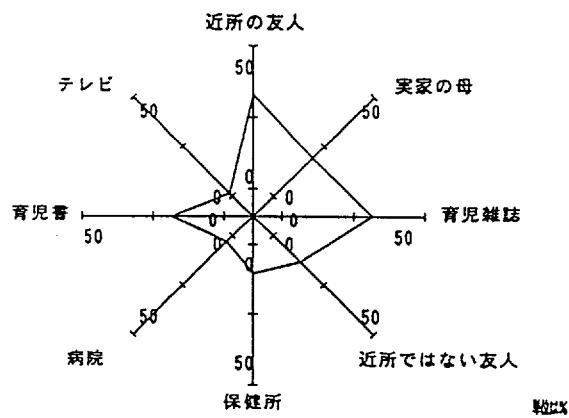
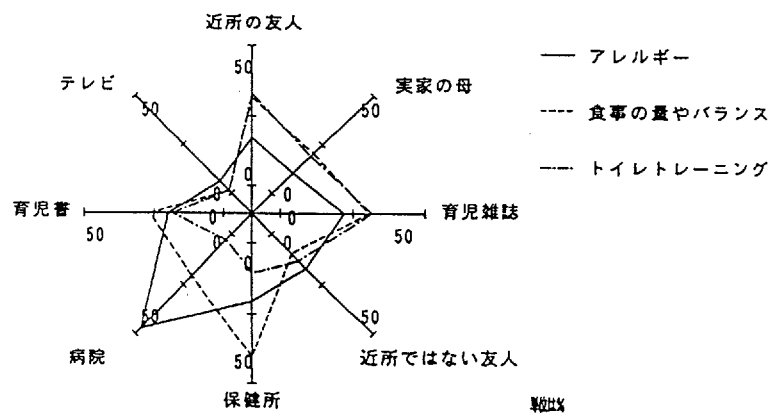


図5 内容で異なる情報の入手先



●内容で異なる情報源

表25 領域別育児情報の入手先順位

領域	内容	順位				
		1	2	3	4	5
授乳・離乳食	授乳・離乳食全般	保健所 45.9%	近所の友人45.8	育児雑誌 45.0	育児書 34.7	実家の母 31.8
	量や栄養バランス	保健所 40.1	近所の友人31.6	育児雑誌 30.7	育児書 26.9	病院 21.2
	食の安全性	育児雑誌 27.8	保健所 20.7	近所の友人19.9	新聞 16.8	テレビ 15.5
	断乳・哺乳瓶はし	近所の友人30.8	育児雑誌 24.7	保健所 21.8	育児書 19.6	実家の母 17.6
体の気がかり	体の気がかり全般	病院 57.4	近所の友人42.4	保健所 39.5	育児雑誌 35.1	育児書 32.3
	アレルギー	病院 47.2	育児雑誌 22.3	育児書 20.1	保健所 20.0	近所の友人17.2
	体の発達	病院 43.0	保健所 32.6	近所の友人25.5	育児書 24.9	育児雑誌 22.4
	睡眠や泣き	近所の友人32.7	実家の母 23.5	育児雑誌 21.8	育児書 18.4	保健所 17.4
育児用品	育児用品全般	近所の友人48.6	育児雑誌 47.0	近ではない友人29.2	親戚兄弟 19.2	育児書 18.8
	紙おむつ	近所の友人41.4	育児雑誌 30.7	近ではない友人21.9	テレビ 12.4	親戚兄弟 11.8
	乳首や哺乳瓶	育児雑誌 28.1	近所の友人26.4	近ではない友人15.0	親戚兄弟 10.4	保健所 10.0
	おもちゃ	近所の友人21.4	育児雑誌 15.4	近ではない友人 6.2	百貨店スーパー 6.1	親戚兄弟 5.8
しつけ・教育	しつけ・教育全般	近所の友人45.8	育児雑誌 43.1	実家の母 33.1	育児書 30.9	近ではない友人22.3
	食事のしつけ	育児雑誌 30.4	近所の友人28.9	実家の母 28.5	育児書 21.1	保健所 16.6
	トイレトレーニング	近所の友人33.2	育児雑誌 31.8	実家の母 19.7	育児書 18.6	近ではない友人13.6
	乳幼児教育	育児雑誌 30.9	近所の友人28.0	育児書 16.8	近ではない友人13.8	実家の母 11.5

※数値は%、保健所は保健所の保健婦や栄養士、病院は病院の医師や看護婦、親戚兄弟は母や姑以外の親戚。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】

母親達は毎日の育児の気がかりを解消するために、内容別に独自の情報網を使いわけている。そこで、現在の一番の気がかりとして多くの母親達あげた「アレルギー」「食事の量やバランス」「トイレトレーニング」を事例として、その不安内容と解消法パターンフローの特徴を質的に分析した。その結果、母親は気がかりの内容や質によって、家庭を核としながら必要な情報をまず身近かな所から収集し解決をはかり、さらに専門情報を入手しては、また近くへ戻るといった段階的な情報収集を行う場合と、最初から社会やマスコミからの情報や影響を色濃く受けて、肝心な子どもからの情報を的確につかめない状況に陥る場合もあることが明らかになった。